

単元名 7 価値を見いだす 一文法への扉2 言葉の関係を考えよう 配当時間 2時間

単元の目標 (1) 文の組み立てにおいて、「主・述」「修飾・被修飾」の関係を理解することができる。  
文節

(連文節) 同士の関係から、文の組立てを考えることができる。

(3) 文の組み立てと意味に着目し、「文法への扉」や練習問題に取り組もうとする。

### 標準的な展開例

10210220\_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 「主・述の関係」「修飾・被修飾の関係」など、文の成分について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「教科書の上段」(p. 189)の文が分かりづらい理由を考える。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★「主・述の関係」「修飾・被修飾の関係」などを理解しよう。</li> <li>○「私(山田さん)」が「どうした」のかが分かる文に書き直す。</li> <li>○「1主・述の関係」(p. 242～p. 243)を読んで、主・述の関係について理解する。</li> <li>○「教科書の下段」(p. 243)の練習問題に取り組む。</li> <li>○「2修飾・被修飾の関係」(p. 243)を読んで、修飾・被修飾の関係について理解する。</li> <li>○「教科書の下段」(p. 243)の練習問題に取り組む。</li> <li>○「3接続の関係」「4独立の関係」(p. 244)を読んで、それぞれの関係について理解し、下段の問題に取り組む。</li> </ul> <p>2 「連文節」について理解し、文の組み立てを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前時の学習を振り返る。</li> <li>○本時の学習課題をつかむ。</li> <li>★「連文節」について理解し、文の組み立てを考えよう。</li> <li>○「連文節」(p. 245)を読み、連文節の働きを確かめる。</li> <li>○連文節内部の文節同士の関係を確かめる。</li> <li>○「並立の関係」(p. 245)を読み、並立の関係について理解し、練習問題に取り組む。</li> <li>○「補助の関係」(p. 245)を読み、補助の関係について理解し、練習問題に取り組む。</li> <li>○「文の組み立て」(p. 246)を読んで理解する。</li> <li>○「教科書の下段」(p. 246)の練習問題に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒板に「山田さん」の文を書き、色チョークで「大石先生は」と「すばらしい」を囲んでそれらが主語と述語の組み合わせになっていることを示す。</li> <li>・「私は」と、組になる語(述語)が抜けていることに気付かせ、「思った」「感じた」などを補う必要があることを理解させる。</li> <li>・「主語の見つけ方」(p. 242)にあるように、まず述語から探し、その述語に対する主語を見つければよいことを理解させる。</li> <li>・修飾・被修飾の関係を矢印で示す。</li> </ul> <p>【評】 文の成分について、理解する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の文節から成り立っているため「～語」とは言わずに、「～部」と呼ぶことを理解させる。</li> <li>・補助動詞を含むものについては、全てその直前の文節が「～て(で)」となっていることにも気付かせたい。</li> </ul> <p>【評】 あいまいな文を書き換える活動を通して「知識・技能」を評価する。</p>

### 【 備 考 】

論理的な表現は、展開の中心となる意見を述べた部分とそれを支える具体例や引用などの付加的な部分などから構成されている。文章を要約したり要旨を捉えたりすることは、文章理解の上で重要な活動である。要約の仕方や要旨の捉え方は目的に応じて変わる場合もあるが、ここでは第1学年ということを前提に、偏りなく要約し、要旨を捉える最も基本的な方法を学習させたい。